

「赤徳中学校の島唄・三味線伝承活動の取組」

1 学校名

龍郷町立赤徳中学校

2 学年・人数

中学1年～3年（計27人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

総合的な学習の時間（20時間） 赤徳中学校

（2）発表の日時・場所

平成28年11月6日（日）学習発表会

平成28年3月14日（日）卒業式

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称 「島唄・三味線」（しまうた・しゃみせん）

（2）由来

奄美の島唄は、いつ頃から唄われているか分かっていないが、現在唄われている島唄の多くは江戸時代後期に作られたと言われている。当時の人々は、薩摩藩の圧政による過酷な生活や制度の厳しさを歌詞に込めて唄うことで、日常生活の憂さを晴らし明日への活力を養っていた。その他島唄には「仕事歌」や「あそび歌」「教訓歌」等があり、仕事をしている時や仲間と集っている時の癒やしや娯楽として、奄美の人々の生活には欠かせないものである。

（3）構成等

全校生徒27人全員で三味線を弾き、島唄を唄っている。曲によっては、音楽担当教諭の太鼓（ちぢん）も加わり演奏をしている。

5 保存会や地域との連携の具体

学校創立50周年記念事業の一環として三味線30竿を購入し、平成15年から総合的な学習の時間20時間を使って「島唄・三味線学習」を行っている。講師は、校区内で島唄・三味線教室を営み数々の民謡大会で受賞歴のある先生を支援ボランティアとしてお招きし、指導をお願いしている。先生には、学習の1時間目に行われるオリエンテーションで、伝統文化の継承の視点から、島唄の歴史や三味線の特性、島唄が人々の暮らしの中で果たしてきた役割等についても話をいただいている。

また、この学習をきっかけに個人的に島唄を習う生徒も多く、町内外の島唄大会に出場し地域からも喜ばれている。平成27年度には、そうした生徒の一人が民謡民舞全国大会に出場し優秀賞を受賞した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

島唄の選曲や学習方法等については、前年度の活動の反省を基に、音楽担当教諭と支援ボランティアが十分に話し合いを行い決定している。今年度は、全校生徒を5つのグループに分け、支援ボランティアが各グループ回りながら、三味線の構え方やバチの持ち方など基本的なことから曲の演奏まで、弾けない生徒を中心に指導した。

発表の場としては、学習発表会での舞台発表や卒業式での送りの演奏等があり、特に本年度の学習発表会では、初の試みとして小中合同の合唱奏を実施した。その他、平成27年度に龍郷町で行われた県音楽研究大会のアトラクションで、島唄・三味線を披露し好評であった。また、平成29年度に同じく龍郷町で行われる県PTA委嘱公開でも、島唄・三味線を発表する予定である

7 取組の様子（練習状況・発表の場等）



【島唄・三味線の練習】



【学習発表会での小中合同合唱奏】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

島唄は、苛酷な時代を生き抜いた奄美の先人達の暮らしぶりや思いを伝える大事な伝統文化である。島唄の継承には、楽器である三味線と指導者が不可欠であるが、両者に恵まれた本校の生徒達は本当に幸せだと思う。

生徒は、全員が3年間の練習で3曲ないし4曲の島唄をマスターして本校を卒業する。その後、島唄を続ける生徒もいれば二度と三味線を握ることのない生徒もいると思うが、中学校で島唄・三味線を習った経験は人生のどこかで故郷への想いととも生きる活力となると思う。

また、学校行事や地域行事、島唄大会等で子ども達の島唄や三味線を聴いて、心を癒やされたり元気を貰ったりする地域の方々も多いと思う。そう考えると、この島唄・三味線の学習は地域の活性化にも役立っていると言えそうである。

本校においては、この島唄・三味線の学習を本校の伝統として今後も継続して取り組んでいくことにより、郷土の先人達の知恵や思いを肌で感じ、郷土に愛情と誇りを持って人生をたくましく生き抜く生徒の育成に努めていきたいと考える。